

第4学年 単元別学習内容一覧

上巻

◎ 算数のとびら (算数の学習の進め方)			
小単元	時	ページ	学習内容
(課題設定)	1	4~8	○10や100を単位にした1位数でわるわり算の計算の仕方を考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話し合いのやり方など算数学習の進め方を知る。 ○自分で考え、みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。

1 一億をこえる数					
目 標				指導時数・時期	
○ 億や兆で表される大きな数について、既習の数の表し方にもとづいてその仕組みを考えたり説明したりすることを通して、数の大きさや十進位取り記数法についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				8時間 2学期制：5月下旬～6月上旬 3学期制：5月下旬～6月上旬	
評 価					
(知)・億、兆の単位について知り、十進位取り記数法について深く理解することができる。 (思)・位の仕組みや数の相対的な大きさに着目し、整数の表し方、10倍や100倍、10や100でわったときの仕組みなどを統合的にとらえたり、大きな数の加減計算や乗法の筆算の仕方を考えたりしている。 (態)・億や兆で表される大きな数とその仕組みに進んで関わり、ふり返りを通して十進位取り記数法や数の相対的な見方のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	142	◆3年「一万をこえる数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	10	◆導入では、示された世界の国々の人口のうち、オーストラリアやケニアで、既習の1億までの数について確認する。	○人口を表す数字から、一億をこえる大きな数について調べていこうという単元の課題をつかむ。	★p.144「もっと練習」に進む。
①億と兆		10~12	◆問1では、位取り板に数を使って数をかいたりよんだりする。 ◆QRコードを読み取り、大きな数の位について確認する。	○十億の位までの数について、よみ方、かき方、仕組みを理解する。	★タブレット等を活用して、p.10に示されていない他の国の人口を調べ、かいたりよんだりする。
	2	13~14	◆問2や問3では、位取り板を使って数をかいたりよんだりする。	○数の仕組みについて理解を深め、一兆をこえる数について知る。	★「算数ポケット」を読み、兆より大きな数の位について知る。 ★p.144「もっと練習」に進む。
	3	15	◆問4では、「4億8000万は、1000万を〇こ集めた数」のような見方を想起してから、相対的な大きさを考えさせる。	○数の加法的な見方や相対的な見方から数を多面的にとらえる。 ○一億をこえる数の数系列を理解する。	★p.144「もっと練習」に進む。
	4	16~17	◆位取り板に数を使って数をかいたりよんだりする。	○整数を10倍や100倍したり、10や100でわったりしたときの仕組みを考えることができる。	★「算数ポケット」を読み、一万円札を積み重ねた高さを調べる。 ★p.145「もっと練習」に進む。
	5	18	◆QRコードを読み取り、整数づくりのイメージをもつ。	○どんな整数も0から9までの数字を使って表すことができることを理解する。	★問4や問5では、桁数や数字を変えて、問題を出しあう。 ★p.145「もっと練習」に進む。
②大きな数の計算	6	19	◆和や差や積の意味を確認してから、問1に取り組む。 ◆ $100 \times 100 = 1$ 万、 1 万 $\times 1$ 万 $= 1$ 億を確認してから、問2に取り組む。	○数の相対的な大きさの見方をもとに、億や兆の位までの数の加法・減法ができる。 ○百 \times 百 $= 1$ 万、 1 万 $\times 1$ 万 $= 1$ 億であることを使って、大きな数の乗法ができる。	★p.145「もっと練習」に進む。
	7	20	◆問3の①③⑤で、筆算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、次時の冒頭で前時の確認として扱うことも可)	○既習の \times (2位数)の筆算の仕方をもとにして、(3位数) \times (3位数)を筆算で計算することができる。	★えんぴつくんのような計算してもよい理由について考える。 ★p.145「もっと練習」に進む。
学びのまとめ	8	21~22	◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。 ◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

2 折れ線グラフ

目 標					指導時数・時期
○ 身のまわりの事象について、折れ線グラフを用いたデータの整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する力を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					7時間 2学期制：4月上旬～4月中旬 3学期制：4月上旬～4月中旬
評 価					
(知) ・身のまわりの事象について、データの変化を表すには折れ線グラフを用いるとよいことを理解し、折れ線グラフをよんだりつくったりすることができる。					
(思) ・目的に応じて、折れ線グラフの目盛りのつけ方を適切に判断したり、折れ線グラフから事象の特徴をよみとったりしている。					
(態) ・身のまわりの事象の変化を折れ線グラフに表すことに進んで関わり、ふり返りを通してグラフを目的にあわせて選択したり工夫したりすることの必要性やそのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	143	◆3年「表とグラフ」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	23	◆ 問1 で、折れ線グラフのよみ方を丁寧に確認する。	○気温の変化の表し方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。	★棒グラフと折れ線グラフを比較させて、その違いを話しあう。
①変わり方を表すグラフ		24	◆QRコードを読み取り、折れ線グラフについて確認する。	○折れ線グラフの意味を理解し、よむことができる。	
	2	25～27	◆「線のかたむきぐあい」「大きい」「小さい」の意味をしっかりとおさえる。	○折れ線グラフの線の傾きから変化の様子がよみとれることを理解する。	★「算数ポケット」を読み、棒グラフと折れ線グラフの違いを整理する。
②折れ線グラフのかき方	3	28～29	◆QRコードを読み取り、折れ線グラフのかき方を確認する。	○折れ線グラフをかくことができる。	★タブレット等で自分の地域の気温を調べ、その気温の変化を折れ線グラフで表す。
	4	30～31	◆ 問3 では、十分な大きさの方眼紙を使って折れ線グラフをかく。	○変化の様子がわかりやすくなるように、一部を省略する波線を使って折れ線グラフをかくことができる。	★よくわかる折れ線グラフにするために、どのようにしたらよいか、また、そのよさを話しあう。 ★タブレット等で身のまわりで使われている折れ線グラフについて調べる。 ★p.146「もっと練習」に進む。
③2つのグラフをくらべて	5	32～33	◆ 問4 では、QRコードを読み取り、折れ線グラフのかき方を確認する。	○2つの棒グラフを1つの棒グラフにまとめて表すことができる。	★ 問2 では、東京とシドニーの折れ線グラフを見比べて、その違いについて話しあう。
	6	34	◆情報量が多くて読み取れない場合は、棒グラフから読み取らせる。	○折れ線グラフや棒グラフを組み合わせたグラフをよむことができる。	★タブレット等を用いて、金沢市以外の折れ線グラフと棒グラフについて調べる。 ★p.147「もっと練習」に進む。
学びのまとめ	7	35	◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。 ◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

3 1けたでわるわり算の筆算

目 標					指導時数・時期
○ 1桁でわるわり算の筆算について、その仕方を考えたり説明したりすることを通して、(2,3位数)÷(1位数)の筆算や簡単な(2位数)÷(1位数)の暗算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					9時間 2学期制：5月上旬～5月下旬 3学期制：5月上旬～5月下旬
評 価					
(知) ・(2, 3位数)÷(1位数)の筆算の仕方や(わられる数)=(わる数)×(商)+(余り)の関係を理解し、計算したり答えを確かめたりすることができる。					
(思) ・既習のわり算の計算の仕方をもとに、(2, 3位数)÷(1位数)の計算の仕方を考えている。					
(態) ・1位数でわるわり算に進んで関わり、ふり返りを通してわり算の筆算の仕方のよさや答えを確かめることの意義に気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	142	◆3年「わり算」「あまりのあるわり算」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	36	◆導入では、実際に10枚の束を7組とばらの2枚の色紙を見せて、結果の見積もりや方法の見通しをもたせる。	○(2位数)÷(1位数)の立式をして、具体物を使ってその計算の仕方を考える。	★ 問1 では、①から④までの色紙を分ける操作とその言葉の説明を関連付けながら、自分の言葉でも説明できるようにする。
①(2けた)÷(1けた)の筆算		37	◆QRコードを読み取り、色紙の分け方を動的に確認する。	○わり算の筆算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。	★ 問2 では、数字を変えてもかけ算で確かめられるのかを確認する。
			◆ 問1 では、①から④までの色紙を分ける操作とその言葉の説明を関連付けながら理解できるようにする。		
			◆QRコードを読み取り、1けたでわるわり算の仕方を確認する。		

	2	38～39	<p>◆問1では、前時の具体物の操作と筆算の仕方を関連付けながら確認する。</p> <p>◆問1では、「大きい位から計算すること」と「たてる→かける→ひく→おろすの順番で計算すること」を確認する。</p> <p>◆QRコードを読み取り、筆算の仕方を確認する。</p> <p>◆問2の①で、筆算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第5時で扱うことも可)</p>	○具体物を使った計算の仕方をもとに、(2位数)÷(1位数)の筆算の仕方を考える。	★問2では、前時の具体物の操作と筆算の仕方を関連付けながら、自分の言葉でも説明できるようにする。
	3	40	<p>◆かけ算に苦手意識がある場合は九九表を机上に置く。</p> <p>◆前時のQRコードを読み取り、筆算の仕方を再度確認する。</p> <p>◆問5の①で、筆算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第5時で扱うことも可)</p>	○余りのある(2位数)÷(1位数)を筆算で計算することができる。	★問4では、前時の数値設定のあまりが0の場合も言葉の式にあてはめることで、わる数×商+あまり=わられる数の関係を統合する。 ★p.148「もっと練習」に進む。
	4	41	◆問7の①と③で、筆算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第5時で扱うことも可)	○(2位数)÷(1位数)で、位ごとにより切れる場合や一の位の商に0が立つ場合の筆算の仕方を理解することができる。	★問8では、答えが出た後に前時で扱った答えの確かめを用いて確認をする。 ★p.148「もっと練習」に進む。
②(3けた)÷(1けた)の筆算	5	42	<p>◆かけ算に苦手意識がある場合は九九表を机上に置く。</p> <p>◆問1では、わられる数の十の位と一の位を隠し、情報量を制限して計算させる。</p>	○既習の筆算の仕方をもとに、(3位数)÷(1位数)の筆算の仕方を考えることができる。	★問3では、数値を変えたいろいろな問題を作成し、友だちと問題を出しあう。
	6	43	<p>◆問6までを確実に身につけさせる。(問4は次時の導入で扱うことも可)</p> <p>◆QRコードを活用し、よくある間違いの筆算の仕方を知ること、正しい筆算の仕方を定着させる。</p>	○(3位数)÷(1位数)で、商に空位がある場合の筆算の仕方を理解することができる。	★QRコードの間違った筆算の仕方を提示し、どこが間違っていて、どのように計算すればよいかを話し合う。 ★p.148「もっと練習」に進む。
●練習	7	44	<p>◆問1や問3や問4で、筆算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第8時で扱うことも可)</p> <p>◆問2ではQRコードを活用し、正しい筆算の仕方を定着させる。</p>	○学習内容を確実に身につける。	★(4位数)÷(1位数)の問題をつくり、筆算の仕方を考える。
③暗算	8	45	<p>◆お金の模型を用意して確認する。</p> <p>◆かけ算に苦手意識がある場合は九九表を机上に置く。</p>	○簡単な(2位数)÷(1位数)を暗算で計算することができる。	★p.148「もっと練習」に進む。
学びのまとめ	9	46～47	<p>◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。</p> <p>◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。</p>	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

* ふく習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	48	○既習事項の確認と持続

4 角とその大きさ

目 標			指導時数・時期		
○ 角について、分度器を用いてその大きさを測ったり、ある大きさの角をかいたりする方法を理解し、いろいろな角の大きさやその和や差について考えたり説明したりすることを通して、角の理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。			8時間 2学期制：4月上旬～4月中旬 3学期制：4月上旬～4月中旬		
評 価					
(知)・角の大きさを回転の大きさとしてとらえ、分度器の使い方や角の大きさの単位(度(°))について知り、角の大きさを測定したり、加減計算をしたりすることができる。					
(思)・角の大きさに着目して図形を考察したり、180°や360°を基準として角の大きさのはかり方やかき方を考えたりしている。					
(態)・角の大きさの測定や作図に進んで関わり、ふり返りを通して角の大きさにあわせて分度器を工夫して使うことや角の大きさも加減計算ができることよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	142	◆3年「三角形」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	49	◆扇と図を使って角の大きさの意味	○まるく開く扇をつくり、それを利	★1回転を越えた角度を提示し、3

①角の大きさのはかり方	50～51	を丁寧に確認する。 ◆QRコードを読み取り、角とその大きさについて確認したり、おうぎを開くイメージを共有したりする。	用いて回転の大きさを角の大きさととらえ、単元の課題をつかむ。	60度以上の角度も存在することを 知る。
	2 52～53	◆QRコードを読み取り、大きさ比べのイメージを共有する。 ◆問1では、QRコードを読み取り、動的に捉えたり、①と②のステップを丁寧に扱ったりすることで確実に角度を測ることができるようにする。	○角度の単位について知り、分度器を使って角の大きさを測定する。	★長さやかさの学習を想起し、大きさの違いを数で表すとよいという見直しをもつ。 ★友だちの種類が異なった分度器でも同じように角度が測ることができるのかを調べる。 ★p.149「もっと練習」に進む。
	3 54～55	◆直角(90°)を基準に見当をつけて測らせる。 ◆問5では、三角定規の直角の部分を直接重ねて90度より大きい小さいかを見当つけて測らせる。 ◆次時につなげるために、三角定規の角度を事前に測らせる。	○辺の長さが短い場合や角の向きが反対の場合に、工夫して角の大きさを測ることができる。 ○正三角形、二等辺三角形、三角定規などの角の大きさを知る。	★問5では、友だちが作成した角の大きさを測ることができるのかを確認する。
	4 56～57	◆問1では、まず、前時で調べた三角定規の角度を確認する。 ◆問2では、三角定規の直角の部分を実際に重ねて確かめることで、半回転は180度であることを実感させる。	○1組の三角定規を組み合わせてできる角の大きさを考え、角の大きさの計算ができることを理解する。	★問3では、問題を見せずに2種類の三角定規を用いてつくることができる角度はどれだけあるのかとオープンエンドな形で取り組ませる。 ★p.149「もっと練習」に進む。
	5 58～59	◆前時で扱った半回転は180度であることを確認する。 ◆問1では、180°の補助線を引いてから考えさせる。 ◆問7では、式に出てくる180や360がどこを指しているのかを図と関連付けながら確かめる。	○半回転や一回転の角の大きさについて理解し、180°より大きい角を工夫して測ったり、その求め方を説明したりすることができる。	★問7では、複数の解決方法を考える。 ★「算数ポケット」を読み、回転した大きさの表し方を確認する。 ★p.149「もっと練習」に進む。
②角のかき方	6 60	◆QRコードを読み取り、角のかき方を確認する。	○分度器を使った角のかき方を理解し、いろいろな角をかくことができる。	★問2では、複数の解決方法を考える。
	7 61	◆問1に取り組む前に、QRコードを読み取り、角のかき方を確認する。	○角のかき方を使って三角形を作図することができる。	★友だちの作成した三角形を同じようにかけるのか、問題を出しあう。
学びのまとめ	8 62	◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。 ◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

5 垂直・平行と四角形					
目 標					指導時数・時期
○ 2直線の位置関係について、その交わり方に着目して垂直・平行の意味を理解し、四角形を平行な辺の組の数で分類してその特徴を調べることを通して、四角形についての理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					13時間 2学期制：6月上旬～6月下旬 3学期制：6月上旬～6月下旬
評 価					
(知) ・直線の垂直や平行の関係について理解し、ある直線と垂直や平行な直線を見つけたり作図したりすることができる。 ・平行四辺形、ひし形、台形について理解し、弁別したり性質を調べたりすることができる。					
(思) ・直線の位置関係や図形の構成要素に着目し、図形の性質について考えたり、その性質をもとに図形をとらえ直したりしている。					
(態) ・直線の位置関係や四角形の考察に進んで関わり、ふり返りを通して垂直や平行な直線に着目することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	143	◆4年「角とその大きさ」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を深める。	
(課題設定) ①垂直と平行	1	63 64～65	◆導入では、写真や絵をもとに、まずは直線の意味を確認してから、その交わり方に着目させる。 ◆QRコードを読み取り、垂直と平行について確認したり、問題1で直線を伸ばしたイメージを共有したりする。	○道路の交わり方から、直線の交わり方を調べていくという単元の課題をつかむ。 ○2直線の交わり方を調べ、垂直の意味を理解する。	★問2の後に、直線○のように直線④に交わっていない直線を作成し、それが垂直の関係になっているのかを友達と確かめあう。 ★「垂」「直」の漢字を調べ、垂は垂れ下がる、直は真っ直ぐという意味を確認する。

	2	66～67	<ul style="list-style-type: none"> ◆QRコードを読み取り、直線を伸ばすイメージを共有する。 ◆問題1では、直線㊸と直線㊹、直線㊺と直線㊻、直線㊼と直線㊽を比べることで垂直の関係を確認する。その後、直線㊾と直線㊿に着目させることで平行の関係を捉えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2直線の交わり方を調べ、平行の意味を理解する。 ○垂直や平行な直線を身のまわりから見つけることができる。 ○平行な2直線の幅を調べ、平行についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ★「算数ポケット」を読み、平行な直線からできる角について知る。 ★問3で、身のまわりにある垂直や平行になっているものを探す。
②垂直や平行な直線のかき方	3	68～69	<ul style="list-style-type: none"> ◆QRコードを読み取り、垂直・平行な直線のかき方を確認する。 ◆問1では、三角定規の直角を意識してかくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1組の三角定規を使って、垂直・平行な直線をかく。 	<ul style="list-style-type: none"> ★問2の後に、平行な直線の幅を指定した作図づくりを友だちと出しあう。
	4	70	<ul style="list-style-type: none"> ◆長方形の特徴には、垂直や平行な辺があることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○垂直や平行な直線のかき方を使って、長方形や正方形をかくことができる。 	
	5	71	<ul style="list-style-type: none"> ◆問1では、直線㊾と直線㊿が方眼紙上で途切れていることに着目させ、直線㊾と直線㊿を伸ばして考えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○方眼紙上で2本の直線の垂直や平行な関係を見つけたり、かいたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ★複数のかき方を考える。
③四角形	6	72～73	<ul style="list-style-type: none"> ◆方眼紙のます目が正方形であることをおさえた上で、正方形の性質を確認する。 ◆QRコードを読み取り、点つなぎのイメージを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○カードの点をつないでいろいろな四角形をつくり、辺の平行関係に着目して分類する。 ○台形と平行四辺形について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ★タブレット等を活用して、身のまわりにある台形や平行四辺形の形をしたものを見つける。
	7	74	<ul style="list-style-type: none"> ◆問4では、辺の長さや角の大きさが等しいことを丁寧に指導する。必要であれば、平行四辺形の図形を用意し、切ったり重ねたり分度器で調べたりする活動を取り入れても良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平行四辺形の辺や角の大きさを調べ、その性質について理解する。 	
	8	75	<ul style="list-style-type: none"> ◆第3時で扱った垂直や平行のかき方を想起させ、問6に取り組む。また、コンパスは円をかくための道具だけでなく、等しい長さを測り取る道具であることも確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平行四辺形の作図の仕方を考えることができる。 	
	9	76	<ul style="list-style-type: none"> ◆問1では、まずは辺の長さだけに着目させてひし形の用語をおさえ、次に角の大きさに着目させてひし形の特徴について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ひし形について知り、辺や角の大きさを調べ、その性質やかき方について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★複数のかき方を考える。 ★タブレット等を活用して、身のまわりにあるひし形の形をしたものを見つける。
	10	77	<ul style="list-style-type: none"> ◆導入では、問1ではなく、問3を先に扱って、対角線に着目させても良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対角線について知り、平行四辺形やひし形の対角線の交わり方を調べ、その性質を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★問3では、実際に折り紙を2回折って赤い線を切って対角線について体験的に理解させる。
	11	78～79	<ul style="list-style-type: none"> ◆問4では、実際にひし形の図形を用意し、対角線を切り取らせるなど体験的に理解させると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ひし形を対角線で切ったときにできる三角形について考え、図形についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ★「他の四角形はどうだろうか」と調べる対象を拡張し、主体的に取り組むように促す。 ★「算数ポケット」を読み、四角形の仲間分けについて整理する。
12	80～81	<ul style="list-style-type: none"> ◆QRコードを読み取り、もようづくりのイメージを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平行四辺形は平面に敷き詰めることができることを知る。 ○敷き詰め模様の中から、いろいろな形を見つけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★「算数ポケット」を読み、ひし形や台形を敷き詰めてできる模様について知る。 	
学びのまとめ	14	82～83	<ul style="list-style-type: none"> ◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。 ◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容の理解を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★「やってみよう」に取り組む。 ◆QRコードを読み取り、四角形のしきつめについて確認する。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

6 小 数

目 標		指 導 時 数 ・ 時 期			
○ 小数について、十進位取り記数法にもとづいて 1/1000 の位までの小数の表し方について理解し、大小を比べたり、たし算ひき算の仕方を考えたりすることを通してその理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。		9 時間 2 学期制：6 月下旬～7 月上旬 3 学期制：6 月下旬～7 月中旬			
評 価		発 展 コー ス			
(知)・1/1000の位までの小数の表し方や仕組みを理解し、小数の大小比較や加減計算をすることができる。 (思)・小数が整数と同じ仕組みで表されていることに気づき、既習の整数の場合をもとに小数の加減計算の仕方を考えている。 (態)・1/1000の位までの小数とその仕組みに進んで関わり、ふり返りを通して0.01や0.1を基準とした数の相対的な見方のよさや小数と整数は同じ仕組みであることに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補 充 コー ス	基 本 コー ス	発 展 コー ス
じゅんぴ (課題設定)	—	143	◆3年「小数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
①小数の表し方	1	84	◆導入では、既習の1/10の位までの小数について確認し、0.1Lは1Lの1/10であることをおさえる。 ◆QRコードを読み取り、小数について確認する。	○0.1Lを単位として表せないかさの表し方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ○0.1Lを単位としたときの端数の表し方を通して、1/100の位までの小数の意味を理解する。	★より小さいかさを表すには、0.1Lをさらに1/10すればよいことを見通す。 ★p.150「もっと練習」に進む。
		85			
②小数のしくみ	2	86	◆問3では、まず、1km=1000mであることを確認する。	○長さや重さなどの量の大きさを、小数を使って表すことを通して、1/1000の位までの小数の意味を理解する。	★タブレット等を用いて、全国にある橋やタワーなどを調べ、mで表された長さや高さをkmなどに表す問題を友達と出しあう。 ★p.150「もっと練習」に進む。
		3	87	◆問1では、1の1/10が0.1、その0.1の1/10が0.01といったことを数直線と対応させて視覚的にとらえさせ、小数の十進数の仕組みの理解をはかる。 ◆QRコードを読み取り、小数の数直線から小数の仕組みについて図的にも捉える。	○1、0.1、0.01、0.001の相互の関係を調べ、1/1000の位までの小数の十進数としての仕組みをとらえる。
	4	88～89	◆問1では、42.195の各数字が何の位かを、前時の学習をもとに確認する。	○小数の加法的な見方や相対的な見方から1/1000の位までの小数を多面的にとらえ、整数との統合をはかる。	★p.151「もっと練習」に進む。 ★「算数ポケット」を読み、小数の表し方について知る。
	5	90	◆問6では、まず、p.11～12に戻り、整数の場合で調べたことを確認する。 ◆位取り板を用意したり、小数点の位置を強調したりするなど、位の大きさを視覚的に分かりやすくする。	○小数を10倍や100倍したり、10や100でわったりしたときの仕組みを考えることができる。	★p.151「もっと練習」に進む。
③小数のたし算・ひき算	6	91	◆位取り板や数直線を用意したり、小数点の位置を強調したりするなど、位の大きさを視覚的に分かりやすくする。	○整数のときと同じように、1/1000の位までの小数の大小関係を理解することができる。	★問2の後に、友だちと小数の大小比べの問題を出しあう。 ★p.151「もっと練習」に進む。
		7	92	◆問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可) ◆QRコードを読み取り、小数の筆算の仕方について確認する。	○小数の見方や仕組みをもとにして、小数の加法や減法の計算の仕方を考えることができる。
学びのまとめ	8	93	◆QRコードを読み取り、よくある間違いの筆算の仕方を知ること、正しい筆算の仕方を確認する。ここでは、位をしっかりとそろえることを意識させる。	○いろいろな場合の小数の加法や減法を、筆算で計算することができる。	★QRコードを読み取り、よくある間違いの筆算の仕方を提示し、どこが間違いで、どのように計算すればよいのかを説明する。 ★p.152「もっと練習」に進む。
		9	94～95	◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。 ◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。

活 見 積 も り を 使 っ て 「 公 園 を き れ い に ! 」

小単元	時	ページ	学 習 内 容
●見積もりを使って	1	96～97	○100や1000などのまとまりをつくって結果を見積もり、判断することができる。

活 算数の自由研究

小単元	時	ページ	学習内容
●算数の自由研究	1	98～99	○「ふしぎな輪」といった自由研究に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。

* ふく習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	102～103	○既習事項の確認と持続

7 2けたでわるわり算の筆算

目 標			指導時数・時期		
○ 2桁でわるわり算の筆算について、1桁でわるわり算をもとにその計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、わり算の筆算の仕方やわり算の性質についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。			11 時間 2 学期制：7月中旬～9月上旬 3 学期制：9月上旬～9月下旬		
評 価					
(知) ・2 位数でわるわり算の筆算の仕方や除法に関して成り立つ性質を理解し、2 位数でわる計算をしたり工夫してわり算の計算をしたりすることができる。 (思) ・既習のわり算の計算の仕方をもとに 2桁でわるわり算の計算の仕方を考えたり、商の大きさや商を立てる位が正しいかどうかを判断しながら商を見当づけたりしている。 ・数のまとまりに着目し、除法に関して成り立つ性質について考えたり、それを用いて計算の工夫の仕方を考えたりしている。 (態) ・2 位数でわるわり算に進んで関わり、ふり返りを通してわり算の筆算の仕方やわり算の性質のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	143	◆4年「1けたでわるわり算の筆算」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	102	◆問2の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○(何十)÷(何十)の立式をして、2桁でわるわり算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。	★80÷20をなぜ8÷4で考えてよいのかを十円玉の模型を活用して説明できるようにする。その際、10円玉を1としていることを意識させる。
①何十でわるわり算		103	◆QRコードを読み取り、2けたでわるわり算の筆算について確認する。	○(何十)でわって商が1桁で余りのない計算ができる。	★p.152「もっと練習」に進む。
	2	104～105	◆問1では、余りが2ということとは、10円玉が2枚あることを意識させる。ここで確認したことを問4に生かすようにする。 ◆問2の①や問5の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○(何十)でわって商が1桁で余りのある計算ができる。	★問2や問5では、答えを出した後に、たしかめ算を用いて確認させる。 ★p.152「もっと練習」に進む。
②商が1けたになる筆算	3	106～107	◆問1では、具体物の操作と照らし合わせながら商の見当のつけ方や筆算の仕方を確認する。 ◆問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○(2位数)÷(2位数)の立式をして、商の見当づけによる筆算の仕方を理解する。	★問1では、具体物の操作と商の見当の付け方を含めた筆算の仕方を関連付けながら、自分の言葉で説明できるようにする。
	4	108	◆問7の①や問8の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○(3位数)÷(2位数)で、商が1桁になる筆算の仕方を考える。	★p.153「もっと練習」に進む。 ★QRコードを読み取り、よくある間違いの筆算の仕方を提示し、どこが間違いで、どのように計算すればよいのかを説明する。
	5	109	◆大きい仮商を立て、1ずつ小さくして修正する方法で定着をはかる。 ◆問2の①で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○仮商の修正のある筆算の仕方を理解する。	★問題①のように、見当をつけた商を2回なおすような問題を見つけ出す。
			◆QRコードを読み取り、商の見通しの仕方について確認をする。		

③商が2けた、3けたになる筆算	6	110	◆問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可) ◆QRコードを読み取り、よくある間違いの筆算の仕方をすることで、正しい筆算の仕方を確認する。	○商が2桁になる(3位数)÷(2位数)の筆算を計算することができる。	★p.153「もっと練習」に進む。 ★QRコードを読み取り、よくある間違いの筆算の仕方を提示し、どこが間違いで、どのように計算すればよいのかを説明する。
	7	111	◆問6の①③④で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○(3位数)÷(2位数)の筆算の仕方をもとに、(4位数)÷(2、3位数)の筆算の仕方を考え、計算することができる。	★p.153「もっと練習」に進む。 ★(4位数)÷(2、3位数)の問題を出しあう。
●練習	8	112	◆QRコードを読み取り、よくある間違いの筆算の仕方をすることで、正しい筆算の仕方を確認する。	○学習内容を確実に身につける。	★QRコードを読み取り、よくある間違いの筆算の仕方を提示し、どこが間違いで、どのように計算すればよいのかを説明する。
④わり算のせいしつ	9	113	◆お金の教具を使って、わり算の性質が成り立つことを具体的にとらえさせる。	○商が等しいわり算の計算を比べ、わり算に関して成り立つ性質を理解する。	★p.153「もっと練習」に進む。 ★どんな時にわり算の性質を使うと便利なのかを考えさせる。
	10	114	◆ $25 \times 2 = 50$ 、 $50 \times 2 = 100$ となることから、 $25 \times 4 = 100$ となることを確認する。	○わり算の性質を活用して、工夫して計算する。	★複数の解決方法を考える。 ★p.154「もっと練習」に進む。
学びのまとめ	11	115	◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。 ◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

8 式と計算の順じよ					
目 標				指導時数・時期	
○()のある式や四則の混じった式について、計算の順序を理解し、いろいろな式の意味や計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、式と計算のきまりについての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				8時間 2学期制：9月下旬～10月上旬 3学期制：10月上旬～10月中旬	
評 価					
(知)・四則の混合した式や()を用いた式について理解し、正しく計算したり、四則に関して成り立つ性質を使って工夫して計算したりすることができる。					
(思)・交換法則、結合法則、分配法則を用いて計算の工夫の仕方を考えたり、式から具体的な場面や思考の筋道をよみとったりしている。					
(態)・()を使った式とその計算に進んで関わり、ふり返りを通して場面や考え方を式に表せることや四則に関して成り立つ性質のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	143	◆2年「しきと計算」「九九のきまり」、3年「式と計算」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を深める。	
(課題設定) ①式と計算の順じよ	1	116 117	◆問1では、()の使い方を確認する。 ◆QRコードを読み取り、式と計算の順序について確認する。	○買い物場面を式に表すことで、単元の課題をつかむ。 ○()を使って1つの式に表したり、その計算の順序を考えたりすることができる。	★問3のような問題をつくり解きあう。
	2	118	◆問題㉔を解いてから、問題㉑を解くなどスモールステップで進める。	○四則混合の計算を1つの式に表したとき、乗除を先に計算することや乗除の()は省いてよいことを理解する。	★問5のような問題をつくり解きあう。 ★p.154「もっと練習」に進む。
	3	119	◆QRコードを読み取り、よくある間違いの計算の仕方をすることで、正しい計算の仕方を確認する。	○四則混合の式から計算の順序をとらえ、正しく計算することができる。	★QRコードを読み取り、よくある間違いの計算の仕方を提示し、どこが間違いで、どのように計算すればよいのかを説明する。 ★p.154「もっと練習」に進む。
②計算のきまり	4	120～121	◆問題㉔と問題㉑では、まずは答えを確認してからそれぞれの考えを共有し、きまりに着目できるようにする。	○まとめて考える考えと別々に考える考えを統合して、分配法則のきまりに気づくことができる。	★算数ポケットを読み、「たし算やかけ算のきまり」で、加法や乗法の交換法則、結合法則が成り立つことを確かめる。
	5	122～123	◆問3では、①③⑤⑦で計算の工夫の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第8時で取り扱うことも可) ◆QRコードを読み取り、計算の工夫について確認をする。	○交換、結合、分配法則などの計算のきまりを活用し、工夫して計算することができる。	★p.154「もっと練習」に進む。
③式のよみ方	6	124	◆問題㉔と問題㉑では、まずは答えを確認してからそれぞれの考えを共有し、図と式を関連付けることできまりに着目させる。	○いろいろな式の表す意味を図と結びつけて考え、そう考えた理由を図を使って説明することができる。	★問1では、図と式を関連付けて説明できるようにする。

④計算の間の関係	7	125	◆ことばの式をかいてから、□を使った式に表す。	○乗法と除法、加法と減法の相互関係をとらえて、計算に利用することができる。	★ 問2 のような問題をつくり解きあう。 ★p.154「もっと練習」に進む。
学びのまとめ	8	126～127	◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。 ◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

9 割合					
目 標					指導時数・時期
○ 2つの数量の関係について、整数の場合で何倍になるかという割合を用いて比較したり割合から数量を求めたりすることを通して、割合の意味とそれを用いる場面について理解するとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					5時間 2学期制：9月中旬 3学期制：9月下旬
評 価					
(知) ・複数の事象の数量の関係を比べるときに割合を用いるとよい場合があることを理解している。 ・割合、比べる量、もとにする量を求めることができる。					
(思) ・日常の事象における数量の関係に着目し、割合を用いて比べたり、割合、比べる量、もとにする量の求め方を考えたりしている。					
(態) ・割合の学習に進んで関わり、ふり返りを通して数量の関係を割合で表すことや何倍になるかをまとめて考えることよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび		143	・3年「何倍でしょう」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	128	◆QRコードを読み取り、イルカとクジラの成長の様子を共有する。	○動物の成長度合いを考えることを通して、単元の課題をつかむ。	★関係図のかき方をかいて、確実に解決できるようにする。
①割合		129～130	◆関係図を示し、何倍かを考えるときには関係図を使ってきたことを想起させる。 ◆関係図のかき方をしっかりと身につけさせる。 ◆QRコードを読み取り、割合の表し方について確認したり、関係図のかき方について共有したりする。	○ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを知る。	★図を用いながら「～mを1としたとき、○mは△にあたる大きさ」という表現を使いこなせるようにする。 ★p.155「もっと練習」に進む。
	2	131	◆関係図にかいてから考えさせる。	○何倍かの関係にある2量のうちの一方がわからない場面で、比べる量を求めることができる。	★図に表して説明できるようにする。
	3	132～133	◆関係図を示し、3つの数量の関係のとらえ方を確認する。 ◆2倍の3倍は5倍ではないことを、数直線とテープの図でおさえる。 ◆QRコードを読み取り、文と図と式について確認をする。	○何倍かの関係にある2量のうちの一方がわからない場面で、もとの量を求めることができる。	★複数の解決方法を考える。 ★自力で関係図にかいて解決する。 ★p.155「もっと練習」に進む。 ★「算数ポケット」を読み、関係図と式の間関係を整理する。
②何倍になるかを考えて	4	134	◆問題文を一文ずつ読み取り、それを関係図に1つずつ表すなど、スモールステップで図にかく。	○□×a×b=cの場面で、順に考えて解く方法と、何倍になるかに着目してまとめて考えて解く方法の2通りの考え方がわかる。	★自力で関係図にかいて解決する。
	5	135	◆問題文を一文ずつ読み取り、それを関係図に1つずつ表すなど、スモールステップで図にかく。	○□×a×b=cの場面で、何倍になるかに着目してまとめて考える方法で解くことができる。	★割合の問題をつくり、解きあう。

● そろばん					
目 標					指導時数・時期
○ そろばんについて、そろばんを用いた小数や大きな数の表し方を理解し、その加減の計算を通して、そろばんの構造やよさに気づくとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					1時間 2学期制：10月中旬 3学期制：10月中旬
(知) ・そろばんによる小数や大きな数の表し方、加法および減法の計算の仕方を知り、そろばんを用いて小数や大きな数の簡単な計算ができる。					
(思) ・整数の加法及び減法をもとに、そろばんを使っての小数の加法及び減法の計算の仕方を考えている。					
(態) ・そろばんの学習に進んで関わり、ふり返りを通してそろばんと十進数の仕組みが関連していることに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					

小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
○そろばん	1	136～137	◆QRコードを読み取り、そろばんの使い方について確認をする。	○第3学年で学習した整数の加減のそろばんの計算処理をもとに、小数の加減や大きな数の計算をする。	★「算数ポケット」を読み、そろばんとおつりの関係について知る。

* ふく習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	138～140	○既習事項の確認と持続

★ 学びのサポート

ページ	学習内容
142～143	○じゅんび
144～155	○もっと練習
158～159	○算数しりょう集

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。

10 面積

目 標		指 導 時 数 ・ 時 期			
○ 長方形や正方形の面積について、その比べ方や表し方を理解し、求め方や公式を考えたり単位を適切に用いて表現したりすることを通して、面積の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。		10 時間 2 学期制：10 月中旬～10 月下旬 3 学期制：10 月中旬～10 月下旬			
評 価					
(知) ・面積の単位についてや長方形や正方形の面積の公式について理解し、長方形や正方形の面積を求めることができる。 (思) ・図形を構成する要素に着目して長方形および正方形の面積の求め方を考えたり、長さの単位をもとに面積の単位の関係を調べたりしている。 (態) ・長方形や正方形の面積を求める活動に進んで取り組み、ふり返りを通して面積の求め方や公式のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	116	・1年「大きさを比べ」、2、3年「長さ」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	2	◆導入では、③と⑤の周りの長さは同じであるが、広さは違うことをおさえる。	○花壇の広さ比べを通して、面積の表し方や求め方について調べていくという単元の課題をつかむ。	★問1では、③と⑤の周りの長さに着目させ、「周りの長さが同じなのに広さは同じになるのか。」という問いをもって取り組みさせる。
①面積		3	◆QRコードを読み取り、広さのくらべ方について確認したりする。		★長さやかさの学習を想起し、広さの違いを数で表すとよいという見直しを持つ。
	2	4～5	◆問1では、結果をふり返り、③と⑤の周りの長さは同じであるが、面積は違うことをおさえ、面積の調べ方の理解をはかる。 ◆QRコードを読み取り、cm ² のかき方について確認をする。	○面積の単位 cm ² について知り、cm ² を使って面積を表すことができる。 ○1cm ² を単位にして、いろいろな形の面積を求めたり、4cm ² の面積を方眼紙上でつくったりする。	★問3の後に、面積が○cm ² の形をノートにかくなどオープンエンドな問題づくりに取り組む。
	3	6～7	◆1cm ² の正方形が単位になっていることを確認しながら進める。	○長方形や正方形の面積を計算で求める方法を考え、公式を導くことができる。	★p.118「もっと練習」に進む。 ★1cm ² の正方形を作成し、筆箱や消しゴムなど身のまわりの物の面積を単位正方形ではかる。
②面積の求め方のくふう	4	8～9	◆QRコードを読み取り、L字型の複合図形の面積の求め方について確認をする。 ◆問題①の大きな長方形から見えない長方形を引く考えは、図と式を丁寧に関連付けて理解させる。	○L字型などの複合図形を分割したり、補完したりして、その面積を長方形の面積公式を使って求め、説明することができる。	★複数の解決方法を比較し、「どうして分けたりつぎたしたりするとよいの？」と問いかけることで、習った長方形に帰着させればよいことに気付かせる。 ★もっと練習 p.118に進む。
③大きな面積	5	10	◆問1では、まず、1m=100cmであることを確認する。 ◆実際に1㎡を用意し、教室の面積が1㎡の何個分なのか見直しをもたせる。実際に活動するのは第7時で行う。	○面積の単位 m ² について知り、m ² を使って面積を表すことができる。	★廊下や体育館の縦と横の長さを提示し、面積の公式を使って求めるようにする。 ★p.118「もっと練習」に進む。
	6	11	◆問3では、まず、面積は単位正方形の何個分かで表してきたことを確認して、課題をつかませる。	○長さの単位が異なる場合の長方形の面積を求めることができる。 ○m ² と cm ² の単位間の関係を理解する。	★p.119「もっと練習」に進む。 ★p.10の問2を何cm ² で表せるのか解き直す。
	7	12	◆問1では、まず1m ² の大きさがどのくらいかを予想させ、1辺1mの正方形をイメージすればよいことをおさえる。	○1m ² の量感をとらえたり、いろいろなもののおよその面積を求めたりすることができる。	★身のまわりにあるもので1㎡のものを探しあう。
	8	13	◆問2では、まず、1km=1000mであることを確認し、1㎏がどのくらいなのかをしっかりとイメージさせる。	○面積の単位 km ² について知り、km ² を使って面積を表すことができる。 ○km ² と m ² の単位間の関係を理解する。	★タブレット等を活用し、実際に教科書にある秋田県大潟村を調べたり、身近な土地の面積を調べたりする。 ★p.119「もっと練習」に進む。
④面積の単位の関係	9	14～15	◆正方形の1辺の長さの関係をもとに、1m ² 、1a、1ha、1km ² の関係をとらえさせる。 ◆QRコードを読み取り、aやhaのかき方、単位の関係について確認をする。	○面積の単位 a、ha について知り、a、ha を使って面積を表すことができる。 ○a、ha と m ² の単位間の関係を理解する。	★地域の地図やタブレットを活用して、大きな面積の量感を伸ばす。
学びのまとめ	10	16～17	◆早く終わった児童は QR を使いながら「やってみよう」に取り組む。 ◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

11 がい数とその計算

目 標					指導時数・時期
○ 身のまわりの数量の表し方について、目的に応じて概数で表されることがあることを理解し、その表し方を考えたり、概数で計算する仕方を説明したりすることを通して、概数の意味やよさに気づくとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					9 時間 2 学期制：11 月上旬～11 月中旬 3 学期制：11 月上旬～11 月中旬
評 価					
(知) ・概数が用いられる場合や四捨五入について理解し、身のまわりの数量を概数で表したり、概数を使って四則計算の結果を見積もったりすることができる。 (思) ・目的に応じて、概数の表し方を考えたり、概算の仕方を工夫したりしている。 (態) ・概数や概算に進んで関わり、ふり返りを通して概数に表したり概算したりすることのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	116	◆3 年「一万をこえる数」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	18	◆導入では、サッカースタジアムに何人くらいが入れるかを予想させ、概数を使って大まかに数量をとらえるよさに触れるとよい。	○およその数で表された場面から概数の意味を知り、単元の課題をつかむ。	★p.119「もっと練習」に進む。 ★タブレット等を活用し、他の都道府県の面積を調べ、それを千のくらいまでのがい数に表す。
①がい数の表し方		19～20	◆QR コードを読み取り、がい数の表し方について確認する。 ◆「切り上げ」「切り捨て」「四捨五入」の意味をしっかりと確認する。	○概数の表し方について調べ、あるきまった位を四捨五入にする方法を理解する。	
	2	21	◆前時の学習を確認してから、問 3 に取り組ませる。 ◆問 4 「上から 2 けたのがい数」はどの位を四捨五入するか確認する。 ◆QR コードを読み取り、よくある間違いを確認する	○桁数の違う数を概数にするときには、上から 1、2 桁の概数にすることを理解する。	★p.119「もっと練習」に進む。 ★タブレット等を活用し、他の都道府県の人口を調べ、それを四捨五入し、上から 2 けたのがい数に表す。
	3	22	◆問 1 では、はじめに、百の位までの概数であることを確認し、何の位が四捨五入されているかを問う。	○四捨五入の仕方をもとに概数の表す範囲を考え、「以上」「未満」「以下」を使って数の範囲を表すことができる。	★p.120「もっと練習」に進む。 ★日常生活でどのような場面で「以上」「未満」「以下」を使っているのかを調べる。
	4	23	◆問 1 では、1 目盛りの大きさをふまえて、どの位を四捨五入すればよいかを考えさせるようにする。 ◆QR コードを読み取り、グラフのかき方を確認する	○1 万をこえる数量を棒グラフに表すのに、概数を用いることができる。 ○身のまわりから、使われている概数を見つける。	★問 2 では、新聞記事やタブレット等を活用し、身のまわりにあるがい数を調べる。
②がい数の計算	5	24～25	◆実際値の計算に電卓を使ってもよい。	○和や差を求める概算の仕方を理解し、見積もることができる。	★複数の解決方法を考える。 ★p.120「もっと練習」に進む。
	6	26	◆実際値の計算に電卓を使ってもよい。	○積を求める概算の仕方を理解し、見積もることができる。	★p.120「もっと練習」に進む。
	7	27	◆実際値の計算に電卓を使ってもよい。	○積の概算の仕方をもとに商を求める概算の仕方を考え、見積もることができる。	★p.121「もっと練習」に進む。
	8	28	◆所持金が 6000 円であることを丁寧にとらえさせ、そこから切り捨てと切り上げのどちらで見積もれば良いのかを考えさせる。	○買えるか買えないかを、切り捨て・切り上げを使って考えることができる。	★問 2 の後に、自分で所持金や商品の値段の設定をし、同じような問題を友だちと出しあう。
学びのまとめ	9	29	◆早く終わった児童は QR を使いながら「やってみよう」に取り組む。 ◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

思 見方・考え方を深めよう「わすれてもだいじょうぶ」

目 標					指導時数・時期
○ 文章題において、問題場面を図に表して解法を考えることを通して、順にもどす考え方をを使って 3 要素 2 段階の逆思考の問題を解くことができるようにするとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					2 時間 2 学期制：11 月中旬 3 学期制：11 月中旬
評 価					
(知) ・3 要素 2 段階の問題を図に整理することができる。 (思) ・図をもとに考え、順にもどして 3 要素 2 段階の逆思考の問題を解決している。 (態) ・3 要素 2 段階の問題解決に進んで関わり、ふり返りを通して問題場面を図に整理して考えることによさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	30	◆問題を図に整理する仕方を丁寧に示し、考えさせる。問題文を区切って読み、一つずつ図に整理する。	○3 要素 2 段階(×、±)の問題を、「順にもどして」考える思考法で解決する。	★問 2 でも、図で整理させ、図を使いこなせるようにする。

	2	31	◆問題を図に整理してから考えさせる。問題文を区切って読み、一つずつ図に整理する。	○3要素2段階(÷、±)の問題を、「順にもどして」考える思考法で解決する。	★似た問題をつくって解きあう。
--	---	----	--	---------------------------------------	-----------------

12 小数のかけ算やわり算					
目 標				指導時数・時期	
○ 小数と整数のかけ算やわり算について、整数の計算をもとにしてその計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、(小数)×(整数)、(小数)÷(整数)の計算や筆算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				16時間 2学期制：11月中旬～12月中旬 3学期制：11月中旬～12月中旬	
評 価					
(知) ・(小数)×(整数) や (小数)÷(整数) の計算の意味やその仕方を理解し、(小数)×(整数) や (小数)÷(整数) の計算ができる。					
(思) ・(小数)×(整数) や (小数)÷(整数) の計算の意味やその仕方について、整数の場合をもとにしたり、小数の仕組みや計算のきまりなどをもとにしたりして考えている。					
(態) ・(小数)×(整数) や (小数)÷(整数) の計算に進んで関わり、ふり返りを通して整数の場合や小数の仕組みをもとにして考えることよき気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	116	◆4年上「小数」「一億をこえる数」「式と計算の順じよ」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	32	◆問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○(小数)×(整数)の式を立て、単元の課題をつかむ。	★図や式を使って、複数の計算の仕方を考える。
①小数のかけ算		33	◆QRコードを読み取り、小数のかけ算について確認する。 ◆QRコードを読み取り、よくある間違いについて確認する。	○乗法九九の範囲の(純小数)×(整数)の計算の仕方を考えることができる。(小数第1位)	★QRコードを読み取り、よくある間違いについて、どこが間違っているのかを説明する。 ★p.121「もっと練習」に進む。
	2	34	◆問7の①や問8の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○乗法九九の範囲の(純小数)×(整数)の計算の仕方を考えることができる。(小数第2位)	★前時と同じように、複数の計算の仕方を考え、「どうして整数のかけ算と同じように計算してよいのか」と問い、その理由を説明させる。
			◆QRコードを読み取り、よくある間違いの計算の仕方を知ること、正しい計算の仕方を確認する。		★p.121「もっと練習」に進む。 ★QRコードを読み取り、よくある間違いの計算の仕方を提示し、どこが間違いで、どのように計算すればよいのかを説明する。
	3	35	◆問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○(小数)×(1位数)の計算の仕方を考え、計算することができる。	★被乗数や乗数の桁数を増やした問題をつくり、取り組む。
			◆QRコードを読み取り、筆算の仕方を確認する。 ◆QRコードを読み取り、よくある間違いの筆算の仕方を知ること、正しい筆算の仕方を確認する。	○整数の筆算の仕方をもとに(小数)×(1位数)の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	★p.121「もっと練習」に進む。 ★QRコードを読み取り、よくある間違いの筆算の仕方を提示し、どこが間違いで、どのように計算すればよいのかを説明する。
	4	36	◆問7の①や問8の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○(小数)×(2位数)の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	★かける数が3けたや4けたの問題を考え、解きあう。
			◆QRコードを読み取り、よくある間違いの筆算の仕方を知ること、正しい筆算の仕方を確認する。		★p.121「もっと練習」に進む。 ★QRコードを読み取り、よくある間違いの筆算の仕方を提示し、どこが間違いで、どのように計算すればよいのかを説明する。
●練習	5	37	◆問1に時間がかかりそうな場合は、問題を精選して取り組ませる。	○学習内容を確実に身につける。	★(小数)×(整数)になる問題をつくり、解きあう。
(課題設定)	6	38	◆問3の①⑤や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○(小数)÷(整数)の式を立て、単元の課題をつかむ。	★図や式を使って、複数の計算の仕方を考える。
②小数のわり算		39	◆QRコードを読み取り、小数のわり算について確認する。 ◆QRコードを読み取り、よくある間違いの計算の仕方を知ること、正しい計算の仕方を確認する。	○乗法九九の範囲の(小数)÷(整数)の計算の仕方を考えることができる。	★QRコードを読み取り、よくある間違いの計算の仕方を提示し、どこが間違いで、どのように計算すればよいのかを説明する。 ★p.122「もっと練習」に進む。

	7	40	◆問7の①や問8の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可) ◆QRコードを読み取り、よくある間違いの計算の仕方を知ること、正しい計算の仕方を確認する。	○被除数を整数にするだけではわからない $2 \div 4$ や $0.2 \div 5$ のような場合の計算の仕方を考え、計算することができる。	★前時と同じように、複数の計算の仕方を考える。 ★p.122「もっと練習」に進む。 ★QRコードを読み取り、よくある間違いの計算の仕方を提示し、どこが間違いで、どのように計算すればよいのかを説明する。
	8	41	◆問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可) ◆QRコードを読み取り、小数のわり算の筆算の仕方について確認する。 ◆QRコードを読み取り、よくある間違いの筆算の仕方を知ること、正しい筆算の仕方を確認する。	○整数の筆算の仕方をもとに(小数) \div (1位数)の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	★p.122「もっと練習」に進む。 ★QRコードを読み取り、よくある間違いの筆算の仕方を提示し、どこが間違いで、どのように計算すればよいのかを説明する。
	9	42	◆問6の①⑤で計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○(小数) \div (1位数)で、商が純小数になる場合や商に空位の0がある場合の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	★p.123「もっと練習」に進む。
	10	43	◆問10の①④や問11の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可) ◆QRコードを読み取り、よくある間違いの筆算の仕方を知ること、正しい筆算の仕方を確認する。	○(小数) \div (2位数)の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができる。	★QRコードを読み取り、よくある間違いの筆算の仕方を提示し、どこが間違いで、どのように計算すればよいのかを説明する。 ★p.124「もっと練習」に進む。
	11	44	◆問1では、余りの大きさは除数より小さいこと、また、わり算の答えを確かめる方法について確認する。	○(小数) \div (整数)で、商を一の位まで求めて、余りがある場合の計算を考える。	★p.124「もっと練習」に進む。
	12	45	◆問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○(整数、小数) \div (1、2位数)でわり進む場合の筆算の仕方を理解する。	★p.124「もっと練習」に進む。
	13	46	◆問5の㉗や㉘で、概数にする方法をふり返らせる。	○(整数、小数) \div (1、2位数)で、商を適当な位までの概数で表す筆算の仕方を理解する。	★問5の数値設定のようにわり切れないわり算の計算を調べ、それががい数で表す。 ↑
●練習	14	47	◆問1に時間がかかりそうな場合は、問題を精選して取り組ませる。	○学習内容を確実に身につける。	★(小数) \div (整数)になる問題をつくり、解きあう。
③小数倍	15	48～49	◆問1の㉗では、関係図を示し、何倍かを考えるときには関係図を使ってきたことを想起させる。 ◆QRコードを読み取り、長さの関係について確認をする。 ◆QRコードを読み取り、小数倍に関してよくある間違いについて確認をする。	○何倍かを表す数が小数になる場合があることを理解する。	★関係図やテープ図を用いて、「～を1とした時、○○は△にあたる大きさです。」という表現で説明できるようにする。 ★QRコードを読み取り、よくある間違いを提示し、どこが間違いで、どのようにすればよいのかを説明する。
学びのまとめ	16	50～51	◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。 ◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

活 どんな計算になるのかな「明石海峡大橋のひみつ」

小単元	時	ページ	学習内容
●どんな計算になるのかな	2	52～53	○根拠にもとづいて、整数の四則計算の演算決定をすることができる。

わくわくプログラミング

小単元	時	ページ	学習内容
	1	54～55	○忍者を動かすプログラムをつくる活動を通して、簡単なプログラミングの仕方を理解する。

* ふく習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	56～57	○既習事項の確認と持続

	3	74	◆問4では、数直線を活用して、1/6が何個分あるのかを目盛りを読み取りながら丁寧に捉えさせる。	○帯分数を仮分数に直す仕方を考え、帯分数を仮分数に直したり、分母の等しい帯分数や仮分数の大小比較をしたりすることができる。	★問5では、問4のように数直線に表すことができないかを考えさせる。 ★もっと練習 p.126 に進む。
②分数のたし算・ひき算	4	75	◆問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○同分母分数の加法(和が1より大)や減法(被減数が1より大)の計算をすることができる。	★4年上のp.92の小数のたし算やひき算を想起させ、分数のたし算やひき算も単位分数の何個分かで考えると整数と同じように計算してよいことを理解させる。 ★p.126「もっと練習」に進む。
	5	76	◆問1では、途中の計算式のかき方に注意させる。 ◆問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として取り扱うことも可)	○帯分数を含む同分母分数の加法や減法の仕方を考え、計算することができる。	★複数の解決方法を考える。 ★もっと練習 p.126 に進む。
③等しい分数	6	77	◆QRコードを読み取り、分数の数直線で大きさの等しい分数について確認をする。その際、数直線を縦に見て、重なっていると大きさが同じであることを丁寧に理解させる。	○分母や分子が違う分数で、大きさの等しいものがあることを、数直線を使って理解する。	★実際に分数の数直線を書かせ、大きさの等しい分数を見付けていく。
学びのまとめ	7	78～79	◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。 ◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

* ふく習

小単元	時	ページ	学習内容
	1	80～81	○既習事項の確認と持続

15 変わり方

目 標			指導時数・時期		
○ 伴って変わる2つの数量について、その変化の様子や関係について調べたり考えたりすることを通して、表やグラフ、式を用いた関数的な見方・考え方を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。			6時間 2学期制：2月上旬～2月中旬 3学期制：2月上旬～2月中旬		
評 価					
(知) ・伴って変わる2つの数量の関係を、表やグラフに整理したり、○や△の式に表したりすることができる。					
(思) ・伴って変わる2つの数量の関係を表に整理して、変化や関係の特徴を考えている。					
(態) ・伴って変わる2つの数量の関係に進んで関わり、ふり返りを通して表やグラフに数量の関係を整理したり式に表したりすることのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	117	・3年「□を使った式」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	82	・導入では、ストローを並べる操作を通して、縦と横の長さの関係に気づかせる。	○長方形づくりを通して、伴って変わる2つの数量の関係について調べていくという単元の課題をつかむ。	★導入では、「縦の本数が変わると、何がかわっているのか。」と問い、形や面積など変わっているものがあるが、その1つである横の本数との関係を調べていくことを捉えさせる。
		83	◆QRコードを読み取り、ストローを並べる様子について共有する。 ◆QRコードを読み取り、変わり方について確認したり、表のかき方について共有したりする。	○伴って変わる2つの数量の関係を調べる表のかき方やよみ方を理解する。	
	2	84	◆表を横や縦に見て、2つの数量の関係を調べる。 ◆表を縦に見ると、和が一定になっていることを確認し、そこから言葉の式、記号の式の順で表す。	○伴って変わる2つの数量の関係を、○や△を使った式に表すことができる。	★「式に表すと、どんな良いことがあるのか」を問い、一般化するよさに気付かせる。
	3	85	◆QRコードを読み取り、正方形を並べる様子について確認をする。 ◆前時と同様に、表を横や縦に見て、2つの数量の関係を調べる。表を縦に見て、だんの数×4＝まわりの長さになっていることに気付かせる。	○伴って変わる2つの数量の関係を表にかいて調べたり、○や△を使った式に表して調べたりする。	★問4では、段の数が1段増えると、周りの長さが4cm 増えることを図と関連づけてとらえるようにする。 ★問5では、段の数×4＝周りの長さになっていることを図と関連づけてとらえるようにする。
	4	86	◆QRコードを読み取り、テーブルを並べる様子について確認をする。 ◆前時と同様に、表を横や縦に見て、2つの数量の関係を調べる。	○変わり方のきまりを表にかいてみつけ、きまりを使って問題を解決する。	★算数ポケットを読み、テーブルの数とすわれる人間の関係についてとらえさせる。

	5	87	◆QRコードを読み取り、グラフをかく様子について確認をする。 ◆折れ線グラフを表す際に、1目盛りが0.5kgを表していることを丁寧に指導する。	○水そうの水の量と全体の重さの関係を、折れ線グラフに表したりよんだりする。	★折れ線グラフに2つの数量の関係を表すよさについて話しあう。
学びのまとめ	6	88	◆早く終わった児童はQRを使いながら「やってみよう」に取り組む。 ◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。

16 直方体と立方体						
目 標					指導時数・時期	
○直方体と立方体について、観察を通してその分類や意味を理解し、その構成要素に着目して性質を調べたり展開図や見取図のかき方を考えたりすることを通して、立体図形の理解を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。					11 時間 2 学期制：2月中旬～3月上旬 3 学期制：2月中旬～3月上旬	
評 価						
(知)・直方体や立方体の意味やその特徴について理解し、展開図・見取図をかいたり、直線や平面の平行・垂直の関係を調べたりすることができる。また、平面や空間における位置の表し方についても理解している。						
(思)・直方体や立方体の構成要素やそれらの位置関係に着目し、直方体や立方体の特徴や展開図・見取図のかき方を考えている。						
(態)・直方体や立方体の考察、位置の表し方に進んで関わり、ふり返りを通して立体図形の構成要素やその位置関係に着目することや位置を数値で表すことよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。						
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース	
じゅんび	—	117	・2年「はこの形」、4年上「垂直・平行と四角形」の学習をふり返る。	○既習事項の理解を確かめる。		
(課題設定)	1	89	◆導入では、まず、箱の形の面の数は6個であることを確認する。	○面から箱をつくることを通して、箱の形について調べていくという単元の課題をつかむ。	★導入で、面の形だけを見て、どのような箱の形ができるかを考える。	
①直方体と立方体		90	◆QRコードを読み取り、直方体や立方体について確認したり、箱の形を調べる活動を共有したりする。	○直方体や立方体の意味を理解する。		
	2	91～92	◆問1では、最初に正面からかくことと、同じ長さの辺は同じ長さになるようにかくことをおさえる。	○展開図のかき方を知り、直方体の展開図をかくことができる。	★問1では、長方形を平面に広げた図は、複数のかき方があることを知る。	
	3	93	◆問4では、箱を切り広げた様子を示して展開図の見通しを立てさせる。	○立方体の展開図をかく。	★実際に立方体を作成し、その展開図が何種類あるのかを調べても良い。 ★算数ポケットを読み、立方体の展開図のパターンについて知る。	
②面や辺の平行と垂直	4	94	◆面に記号や色をつけるなど、分かりやすく捉えるようにする。	○直方体の面と面の平行や垂直の関係を理解する。	★身のまわりで平行や垂直になっている面と面の関係を見つける。	
	5	95	◆実際に箱を用意して、三角定規や下敷きなどを使いながら確かめさせる。	○直方体の辺と辺の平行や垂直の関係を理解する。	★身のまわりで平行や垂直になっている辺と辺の関係を見つける。	
	6	96	◆実際に箱を用意して、三角定規や下敷きなどを使いながら確かめさせる。	○直方体の面と辺の平行や垂直の関係を理解する。	★身のまわりで平行や垂直になっている面と辺の関係を見つける。	
	7	97～98	◆実際に箱を用意して、三角定規や下敷きなどを使いながら確かめさせる。	○見取図のかき方を知り、直方体や立方体の見取図をかくことができる。	★算数ポケットを読み、直方体と立方体を表す図について知る。	
●練習	8	99	◆工作用紙などで展開図や箱をつくっておき、実際に操作しながら考えさせたり答えを確かめたりする。	○学習内容を確実に身につける。	★時間があれば、立方体の展開図の種類は11種類だが、直方体では何種類かを考えさせても良い。	
③位置の表し方	9	100～101	◆教室内でも同じように、縦と横で座席を表す方法を確認してから問1に取り組む。	○平面上にあるものの位置の表し方を理解する。	★p.127「もっと練習」に進む。 ★タブレット (geogebra) 等を用いて、平面上にあるものの位置は2つの数の組で表すことを確認する。	
	10	102	◆高さが100mの位置に展望台があることをおさえる。	○空間にあるものの位置の表し方を理解する。	★p.127「もっと練習」に進む。 ★タブレット (geogebra) 等を用いて、空間にあるものの位置は3つの数の組で表すことを確認する。	

学びのまとめ	11	103	◆早く終わった児童は QR を使いながら「やってみよう」に取り組む。 ◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。 ★タブレット等を活用して発展問題に取り組む。
--------	----	-----	---	----------------	---

活 だれでしょう

小単元	時	ページ	学習内容
思 だれでしょう	1	104～105	○示された条件を表に整理し、順序良く推論して問題を解くことができる。

わくわく SDGs 「ごみを減らそうプロジェクト」

小単元	時	ページ	学習内容
●わくわく SDGs	1	106～109	○ごみ問題について話し合い、与えられたデータから 1 人あたりのごみの量を求めることができる。 ○調べた結果から、ごみを減らすためにできることを話し合う。

* もうすぐ 5 年生 (4 年のふく習)

小単元	時	ページ	学習内容
	1	110～111	○4 年生の学習内容の確認と持続
	2	112～113	
	3	114	

★ 学びのサポート

ページ	学習内容
116～117	○じゅんぴ
118～127	○もっと練習
130～131	○学びをつなげよう

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。
 すべての児童が一律に学習する必要はありません。